



irs

COP29

グリーン リレー

今 年11月、世界約200カ国の代表がアゼルバイジャンの首都に集まり、地球の自然環境を保護するための方策について話し合います。どう考えても、ドバイからバトンを引き継いだCOP29は、この重要なプロセスでできるだけ早く結果を達成するというすべての会議参加者の決意を示しました。

地球の時間「H」

地球は今日、世界規模の自然危機の脅威に直面しています。しかもそれは人類の滅亡にもつながりかねないほど危険なものです。この矛盾は、まさに人間の行為によって引き起こされるということです。より正確には、現代の産業文明が大気、世界の海洋、雪氷圏、生物圏の状態に及ぼす悪影響です。

人為的気候変動がすでに地球上のあらゆる地域で異常気象を引き起こしているという十分な根拠のある信念があります。地球上の温度は上昇しています。科学者らは、過去10年(2011年から2020年)は地球史上「最も暖かかった」と述べています。大気中の温室効果ガスの濃度が増加するにつれて、異常な暑さの期間がより頻繁に発生し、広大な地域を飲み込む火災が発生し、破壊的な嵐、サイクロン、ハリケーン、台風の強度と頻度が増加します。一部の地域では水が不足し、干ばつにより砂嵐や砂嵐が発生しています。砂漠が肥沃な土地を消費し、氷河が溶けて海面が上昇していますこれは必然的に多くの種の動物、鳥、昆虫、植物の絶滅につながり、より攻撃的な生物がその地位を奪う可能性があります。現実以上の脅威のリストには、農地の減少や海洋資源の枯渇が含まれており、これにより食糧不足の問題がさらに深刻になり、不利な地域からの集団移転が生じ、ひいては社会的、経済的、軍事的混乱、衝突を引き起こす可能性があります。環境活動家による最初の憂慮すべき信号は、前世紀半ばに鳴り響きました。そして、彼らの声が聞こえなかったとは言えません。一部の国では、水、森林、大気の



COP29
Baku
Azerbaijan



汚染に対する法律が制定され、生物圏を回復する取り組みが行われました。しかし、これらの行動は他の州と調整されておらず、単一のプログラムは存在しませんでした。1992年の地球サミットで初めて、気候変動に関する国連枠組条約が採択され、地球の健全性に関する将来の協定の基礎が築かれました。サミット後の国際フォーラムは、2015年に196か国とEUによるパリ協定の署名につながりました。その目標の1つは、各国が気候変動の影響に適応するのを支援するために十分な資金を動員することでした。しかし、環境活動における疑いのない成功にも関わらず、これから行われなければならない仕事の規模は非常に膨大であり、すべての国、都市、金融機関、企業、地球上の全人口、そして実際にすべての団体の行動によってのみそれらに対処することが可能です。

アゼルバイジャンへのメッセージ

アゼルバイジャンがCOP29の開催地選ばれたのは非常に合理的です。独立の最

初の数年以来、環境問題はアゼルバイジャン共和国政府の注目の的でした。この国は私たちの目の前で変化しており、経済や社会分野において最高の発展率を示しているだけでなく、環境基準も積極的に実施しています。

まず第一に、これは「グリーンエネルギー」に関するものです。アゼルバイジャンにおけるその潜在力は27,000MWを超えます。これにより、年間500億kWhの電力の供給が期待でき、国の経済のニーズを満たすだけでなく、輸出のための条件も作り出すことができます。自然が提供するすべての機会を考慮すると、アゼルバイジャンの再生可能エネルギー資源の主な割合は、太陽 - 23,000 MW、風力 - 3,000 MW、地熱源 - 800 MW、小さな川の水力発電所 - 520 MWによるものです。

現在、アゼルバイジャンでは新しい水力発電所が建設され、太陽エネルギーと風力エネルギーで稼働する発電所も建設されています。特にアルメニア占領から解放されたカラバフとザングズル東部では多くの水力発電所が稼働しました。



2014年、アゼルバイジャンの再生可能エネルギー源で稼働しているすべての発電所は、148万kWhの電力を生産しました。8年後の2022年には、再生可能エネルギーの発電量は19億4,500万kWhに達しました。出力226MWの水力発電所がカラバフとザンゲズル東部ですでに稼働開始されています。2024年末までにその容量は270MWに達し、今後2～3年で500MWに達する予定です。2023年10月20日、ガラダ太陽光発電所が運転を開始しました。面積は550ヘクタールです。この発電所には50万枚以上のソーラーパネルがあり、年間5億kW/hを発電できます。国家の努力のおかげで、アゼルバイジャンのエネルギーバランスに占める再生可能エネルギー源の割合は17%に近づいています。2026年末までに、さらにいくつかの太陽光発電所と風力発電所が稼働する予定です。

アゼルバイジャン共和国は、気候変動との戦いにおける国際協力に積極的に参加しており、世界的な気候目標に沿って温室効果ガ

ス排出量を削減するという最も野心的な目標を設定するよう努めています。カラバフとザンゲズル東部の領土は、2050年までにゼロエミッション地域に転換される予定です。バクーで開催されたCOP29専用の会合で、イルハム・アリエフ大統領は次のように約束しました。「アゼルバイジャンは石油・ガス国として、この分野で自らの実力を証明し、世界中の誰もが私たちの議題がグリーンエネルギーに関連していることを再び理解します。グリーンエネルギーの創出とグリーンエネルギーの世界市場への輸送は、現在、当社のエネルギー政策の優先事項です。これが現実であり、全世界が再びそれを目にすることになります。」

ファストスタート

アゼルバイジャンの歴史のスケールからすると、この国が独立を回復してから経過した時間はそれほど長くはなく、30年強です。しかし、より驚くべきは、環境保護を含むあらゆる分野での変革の量です。アゼルバイジャンが建国当初、ソ連から受け継いだ深刻な環境



問題に直面していたことは周知の事実であります。

天然資源の広範な使用、ソ連存亡の末期に伴う経済崩壊、アゼルバイジャン領土の5分の1をアルメニアが占領し、鉱物が貪欲に採掘され、河川が汚染され、森林が伐採されました。ダウンは、90年代初頭の環境状態に多くの否定的なプロセスを引き起こしました。

しかし、ヘイダル・アリエフ大統領やイルハ

ム・アリエフ大統領などの指導者の政治的意志が状況を根本的に変えました。起こったより良い変化は、国連欧州経済委員会が2011年に作成したアゼルバイジャンでの第2回環境パフォーマンスレビューにすでに記録されています。

大統領令と命令が公布され、国際基準に従って開発された法律が採択され、自然の回復と保護を目的とした国家計画が策定され





ました。アゼルバイジャンは共同行動の重要性を認識し、自国に関連する環境保護に関するすべての国際条約に同意しました。

カスピ海の水生環境の状態には細心の注意が払われました。大陸棚での石油とガスの集中的な生産は、前世紀の終わりまでにカスピ海の汚染と多くの生物種の消滅の問題が深刻になったという事実をもたらしました。それを解決するために、アゼルバイジャンはカスピ海の環境安全を確保するための国家プログラムを採用しました。緊急時の石油流出を防ぐための設備が海洋石油生産プラットフォームに設置され、産業廃棄物の海への投棄が停止され、希少魚種の漁獲が禁止されました。

そして2003年にはテヘラン、アゼルバイジャン、イラン、ロシア、カザフスタン、トルクメニスタンで「カスピ海の海洋環境保護枠組条約」を締結しました。この文書は、カスピ海の環境を汚染源の可能性から保護することだけでなく、カスピ海の海洋環境を保存、回復、保護することも目的としています。

同国は再生可能エネルギーを利用した発電所の設計・建設を積極的に始めています。出力445MWの太陽光発電所がアゼルバイジャン南東部のビラスヴァル地域に建設され、出力315MWのSEZが国の南部ネフチャラ地域に出現し、風力発電所が建設される予定であります。アブシェロン地域とガラダー地域の境界にあるアブシェロン半島に、240MWの発電容量が建設される予定です。2025年には、出力240MWのキジ・アブシェロン風力発電所が運転を開始します。カラバフ、ザンゲズル東部、ナヒチェヴァン自治共和国などの地域は、「グリーンエネルギー」地帯として宣言されています。

2021年2月14日、国家元首はアルメニア占領から解放された領土内で、ハカリ川に容量8メガワットの初の水力発電所を開設しました。そして現在、合計容量226MWの水力発電所のカスケード全体がすでにそこで稼働しています。最大の可能性は、イラン・イスラム共和国と協力してアラクス山脈に建設される、2



つの強力な水力発電所、クダフェリンとギズ・ガラシです。

アゼルバイジャン側は彼らから140MWの発電容量を受け取ることになる。2027年までに、アゼルバイジャン共和国のエネルギー部門における再生可能資源の割合は、2020年の17%から33%に増加します。

大規模な環境再建の代表例としては、石油化学企業が集中するバクー地区のブラックシティの再建が挙げられる。バクー・ホワイト・シティ・プロジェクトの作業の開始は、アゼルバイジャンのイルハム・アリエフ大統領の法令によって与えられた。2011年12月24日、ホワイトシティの定礎式がバクーで行われました。

工事は1,650ヘクタールの広大な面積で行われました。完成後、首都の新しい地区には28万人の住民が収容される予定でした。しかし、建設を開始する前に、すべての産業企業を解体し、産業廃棄物を除去し、油に浸った土壌層を除去し、数百トンの肥沃な土壌を

搬入する必要がありました。今世紀の30年代の初めまでに、ホワイトシティ地区のほとんどが完成しました。アゼルバイジャン共和国のイルハム・アリエフ大統領には、「黒人都市を清算し、その代わりに環境に優しい白人都市を創設することは、我々の次なる歴史的成果である」と言う権利がありました。

カラバフの新しい外観

アゼルバイジャンが解決しなければならない環境問題の中で、真っ先に挙げられるのが、アルメニアによるカラバフとザンゲズル東部の占領の影響であります。愛国戦争が終わって4年が経ちましたが、アゼルバイジャン人の大量帰還は依然として不可能です。かつて栄えていた広大な地域は生命のない砂漠と化しました。占領者らは家屋や都市全体を破壊し、学校や病院を廃止し、道路を破壊し、プラントや工場設備をアルメニアに輸出し、森林を伐採し、化学廃棄物で川を汚染し、略奪



的な採掘を実施し、宮殿、寺院、モスクを破壊しました。カラバフとザンゲズル東部の土地は荒廃しただけではありません。家の屋根に再び入りたい人にとって、それらは致命的となりました。占領者たちは約150万個の地雷を埋め込みました。

工兵たちは、道路を舗装し、電線を引き、水道管を敷設する人たちの前を歩きました。そして何キロも続く高速道路が延長され、川に橋が架けられ、山々にトンネルが貫かれました。カラバフとザンゲズル東部では、合計39本のトンネルと90本の新しい橋が建設される予定です。それらの多くはすでに運用されています。解放領土内には3,138.5キロメートルの道路が建設されます。この地域は電力を非常に必要としていました。賭けは水力発電に賭けられました。アゼルバイジャン共和国のイルハム・アリエフ大統領は、「カラバフ地域はグリーンエネルギー地帯として全世界の模範となります」と約束しました。2022年末まで

に、カラバフとザンゲズル東部に完全に電力が供給されました。

返還された領土には4つの国際空港が就航することになります。すでに運営されているフズリとザンゲランの2空港に、2025年に開港予定の3番目のラチン空港と再建されたコジャーリ空港が加わることになります。

インフラ整備に続き、都市の復興が始まりました。2021年5月末、ジャーナリストが「21世紀の広島」と呼ぶアグダムに、初の高層住宅と960人収容の学校の基礎が築かれました。そして他の都市でも取り組みが始まりました。数か月後、すでにカラバフ全土で住宅がブロック単位で建設され、公園や広場が配置され、ホテルやショッピングセンター、博物館や美術館が建設され、将来の産業企業の用地がマークされていました。

環境基準を厳格に遵守することで、農業の復活が始まりました。パイロットプロジェクトは、ザンギラン地区のアガリー II 村の建設で

した。900人の新規入植者のために、200の個別コテージ、学校、幼稚園、医療センターが建設されました。「スマートな農業生産」は、気象だけでなく植物の病気も監視する気象観測所や、害虫の出現に対応するシステムによって支援されます。人工知能が畑の灌漑を監視します。Agala-IIの実装が成功したことで、「スマート ビレッジ」の大規模な建設を開

始することが可能になりました。現在、カラバフとザンゲズル東部全域で建設が進められています。同時に、工業生産や農業生産、小規模水力発電所や太陽光発電所が建設されており、村や企業に「グリーンエネルギー」を提供するはずで

す。同様に重要な問題は、解放地域の灌漑インフラの修復でした。すでに2021年には9つ



のため池で大規模な改修工事が始まりました。その中で最大のものはラチン地方の「カーカリチャイ」です。その容量は9,000万立方メートルとなり、7つの地域に優れた飲料水を提供する予定です。

緑の資源

アゼルバイジャンは、その地理的特徴によ

り、膨大な自然の可能性を秘めています。私たちの地球上に存在する 11 種類の主要な気候タイプのうち 9 種類がここに 있습니다。コーカサスで一般的な植物の総数のうち、絶対的な多数がアゼルバイジャンで見られます。これは約 4,500 種であり、そのうち約 240 種が固有種です。この国の動物相は 25,000 種の動物相に代表されます。





この国には最大 200 グループの鉱泉があり、その多くは有名な海外リゾートの水よりも品質と化学組成が優れています。

種の生物学的多様性の保存と回復、エコツーリズムの発展、自然に対する思いやりの態度の形成、この国のユニークな自然複合体の領域における積極的な研究活動 - これらは、アゼルバイジャンで創設された環境保護区システムの主な目標です。彼らの活動は、1999 年に採択された「野生動物に関する法律」および「環境保護に関する法律」によって規制されています。

アゼルバイジャン共和国の特別に保護された自然地域のリストには、10 の国立公園、10 の州保護区、24 の保護区、および 44 の天然記念物が含まれています。さらに、37 の地質学および古生物学的対象物と 15,000 ヘクタールの固有の森林プランテーションが確認されました。特別保護地の総面積は 89 万 3,000 ヘクタール。さらに、自然保護区の面積は年々増加しています。

アゼルバイジャンは当然のことながら、天然資源への配慮が国家的重要事項である国の一つです。そのため、アルメニアが占領した領土の解放直後、イルハム・アリエフ大統領は、占領者によって伐採された森林を回復するという課題を設定しました。この問題を解決するための第一歩は、ジェブライル地域に「アゼルバイジャン・トルコ国際林業研修センター」、「スマート保育園」、「友好の森」の複合施設を創設することでした。プロジェクトは 2022 年 10 月に開始されました。毎年、ここで 200 万本の苗木が育てられ、森林が整備されます。同時に、アゼルバイジャンの国立公園から持ち込まれた野生動物や鳥がこの地域に住み始めました。2022 年から 2023 年にかけて、数十頭の甲状腺腫のガゼル、ベゾアールヤギ、ダゲスタンのオーロックスが再定住しました。さまざまな魚種の稚魚が川や湖に放流されました。





一緒だけ!

各国はそれぞれ独自の道を選択しますが、これらすべての道は同じ方向を向いており、最終的には平和、進歩、自由、繁栄という誰もが同じ目標に向かって進んでいます。しかし、矛盾しているのは、それらは全員が団結することによってのみ達成できるということです。たとえ異なる大陸に住んでいても、私たちはお互いに非常に依存しています。

さらに、地球上の気候変動が必然的にもたらす地球規模の大惨事に世界が近づいているとき、力を合わせる必要があります。国連気象庁(BMO)が、地球温暖化と闘うための断固とした行動の欠如が新たな気温記録を引き起こしたと強調しているのは偶然ではありません。

現在の状況は、主要な国際機関、政府、国民を不安にさせないとは言えません。地球の気候を安定させるという問題の解決に向けた最初の一步が踏み出されました。ほとんどの先進国は、大気中への有害物質の排出削減に取り組んでおり、その名誉のために、その達成に努めています。昨年、気候変動によって引き起こされた損害に対して最も脆弱な国々への補償を支援するために、損失損害

基金が設立されました。環境への害が少ないエネルギー源への移行の問題に取り組んでいます。より厳格な環境法が導入されています。

アゼルバイジャンもこの取り組みに参加しているが、産油国であるアゼルバイジャンにとって、新たな環境基準に準拠するための経済再構築は深刻な経済的損失を伴います。アゼルバイジャンは、将来の世代に対する責任を意識し、自然環境の監視と保護、動物種の生物学的多様性の保存と回復、森林の回復、国民の環境リテラシーの向上などのシステムに多額の投資を行っており、次のようなプログラムの実施に成功しています。「グリーンエネルギー」を生み出します。さらに、アゼルバイジャン共和国指導部は、近い将来、他国への「グリーンエネルギー」の輸出を開始する予定であります。

そしてこれらの計画は実現するでしょう。これを疑う人は誰もいません。欧州委員会がアゼルバイジャンを「信頼できるパートナー」と呼んだのは偶然ではなく、2023年にドバイで開催される気候会議ではバクーがCOP 29の開催地に選ばれました。

アゼルバイジャンの例は、世界社会全体に



とって重要な大規模な問題の解決は、今日、地球の運命が全員の意志にかかっているという理解のもと、指導者の政治的意志から始

まるという考えを改めて裏付けるものであります。地球を守るだけでなく、地球をさらに美しくするために協力してください。🌱

